

# あやめ池学園南九条の会



## 原子力発電から自然エネルギーへの転換をめざして

東日本大震災から 5 カ月が経過しようとしています。「想定外の出来事」、「千年に一度の大震災」といわれています。「想定外であったのか、どうか」様々な意見のあるところでしょう。しかし、千年に一度の大震災ということでは、衆目の一致するところではないでしょうか。さすれば、今の時代に生きる我々は、「千年に一度の大震災」を経験したものとして、今後の千年に耐えうる一大決断をしなくてはならない責任があるということです。責任は重大です。

### □ 日本の原子力政策に一点の曇りもなかったのでしょうか。

作家の村上春樹氏はスペイン カタルーニャの演説で、「二度目の大きな核の被害に遭った。広島原爆碑に書かれている『安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから。』という文章を思い起こす。日本人は核に対する『ノー』を叫び続けるべきだった。何故そんなことになったのか？戦後、長いあいだ我々が抱き続けてきた核に対する拒否感はいったいどこに消えてしまったのでしょうか。我々が一貫して求めていた平和で豊かな社会は何によって損なわれ、ゆがめられたのでしょうか。」と語りました。

立命館大学教授の安齋郁郎氏は、著書「福島原発事故」(かもがわ出版)で、冷戦時代「ソビエト」などに対抗して、アメリカ自身が大量の核兵器を確保するため、できるだけ安価に濃縮ウランやプルトニウムを確保する目的で、日本に原子力発電を導入させたことや、全国1つであった電力会社を分割することにより、日本のエネルギー供給体制の弱体化を狙い、一方、濃縮ウランは他国からの購入に上限を設け、アメリカから購入することを大前提とするなど日本のエネルギー供給の首根っこを押さえる不平等契約締結問題が指摘されています。

今回の事故を契機に、日本のエネルギー政策が、アメリカの政策に従属することに見切りをつけられるかどうか、重要な岐路に立っています。

原発は安いといわれているが、どうも政治価格であって本質的には、結構高いのではないか。マスコミが、やらせメール問題でも真剣に取り組まない。関係者は真実をよくわかっているのになぜ本当のことを言わないか。

「脱原発」は、「日米同盟」の現状にくさびを打ち込み、この国のあり方の本質に迫る問題です。

**講演会** : (仮題)「憲法 9 条と原発政策」

**と き** : 9 月 10 日 (土) 午後 1 時 30 分～ **と ころ** : 西部公民館にて

**講 師** : 佐藤真理弁護士 (奈良合同法律事務所 元奈良弁護士会会長 東大卒)

詳しくは、ホームページへ

奈良 憲法

検索



あやめ池学園南九条の会では、講演会、座談会、全戸チラシ配布、ニュース発行、映画の上映協力、駅頭での署名宣伝行動などにとりくんでいます。ひきつづき、ミニ集会など、より小さな集まりの単位で活動を広げていきます。カンパもよろしく！

「会」では、呼びかけへの賛同、ポスターミニステッカー掲示、などに取り組んでいます。ご協力いただける方は、是非ご連絡を！

発行責任者 吉川好胤 あやめ池南1丁目3-32 2011.8.6 no.13  
http://9jo.e-nara.info mail ayameike9jo@hotmail.com fax 0742-44-0416